

令和6年度 第1回 伊勢市障害者施策推進協議会 結果概要

開催日時	令和6年 9月 5日(木曜)19時 00分～20時 30分
開催場所	伊勢市役所東館5-3・5-4会議室
出席委員	宮崎 吉博 会長、大杉 成喜 副会長、河之口 学 委員、嶋垣 智之 委員、斎藤 茂 委員、小林 えり子 委員、永井 正高 委員、中森 忠司 委員、立松 浩明 委員、三宅 浩 委員、溝井 力 委員、金子 直由 委員、田中 雅也 委員、奥田 恭子 委員、浅尾 賛平 委員、横田 由美 委員、酒井 未央 委員、森 美穂 委員、前田 弓子 委員、浦田 宗明 委員、山本 明伸 臨時委員 (自立支援部会長)
欠席委員	倉野 直紀 委員、森 夏代 委員、岡田 まり 委員
事務局	高齢・障がい福祉課長・障がい福祉係長・係員1名 福祉総合支援センター長・副参事 こども発達支援室長、学校教育課副参事 基幹相談支援センター長・職員、地域相談支援センター1名
傍聴者	1名

- ・委員異動の紹介
- ・会長挨拶

1 第2期障がい者計画等の進捗状況について (事務局より報告)

2 地域生活支援拠点等の進捗状況について (事務局より報告)

- ・令和5年度末で 11 事業所に拠点登録していただき、緊急時の支援プランについては 3 件の提出があった。
- ・市内の短期入所事業所については概ね拠点登録済みとなっている。
- ・今後、パンフレット等を活用しながら、緊急時リスクの高い世帯を中心に利用者登録を拡大していく。
- ・地域生活支援拠点コーディネーター2名を地域の障がい者相談支援センターに配置しており、利用者登録の拡大に向けて進めていく。
- ・災害時の支援として、個別避難計画の作成を緊急時支援プランと同時に進めている。

(委員からの質問・意見)

- ・地域生活支援拠点等について、伊勢市では先進的に取り組んでもらっており、登録事業者も今後増えていくと思うが、利用者登録の拡大についてどのようなイメージをお持ちか。
 - 短期入所の体験利用をしていない方は、緊急時の受入れ先という計画が立てにくい状況がある。緊急時リスクの高い世帯を各計画相談員において把握し、

担当する利用者の短期入所の利用有無について確認してもらい、利用している方については緊急時支援プラン作成及び利用者登録を進めていく。

3 自立支援部会からの提案について

- ・伊勢市において、医療的ケアが日常的に必要な子どもは16名ほど在宅生活をしている。
- ・課題として、親がほぼ24時間365日自宅にいないといけないため心身の負担が非常に大きい。
- ・近隣市町を含めて医療的ケアに対応できる短期入所は明和病院なでしこの4床のみ。
- ・訪問看護ステーション等が通常健康保険の適用を超えて訪問看護を実施した場合の超過費用を補助することで家族の負担軽減に繋げたい。対象者については18歳までの方で、訪問看護により医療的ケアを受けている方であり、利用目的がレスパイト又は短期入所等ほかのサービスの利用が困難な方、その他伊勢市が医療的ケア児と認めた方としたい。
- ・退院後の生活のイメージが持てないので、不安が大きい。また将来に対しての不安もある。相談先を一目でわかるフローチャート冊子のようなものを作成したい。デザインについても当事者家族が前向きになれるようなものにしたい。支援者の増加にも繋がってほしいので、配布先としては、支援者、家族、関係機関を想定している。

(委員からの質問・意見)

- ・保護者のレスパイト目的で提案してもらったが、介護負担の軽減にもなるし、精神的なレスパイトにもなると思う。ただ、短期入所の事業所を増やすこともレスパイトの充実という意味で必要となる。
 - ・レスパイトだけでなく、自由な時間が制限されている現状もあり、重要なテーマだと思う。医療的ケア児は特性や処置が幅広いの慣れた職員がいないといけないので、施設を増やすということは非常に困難。
 - ・紙ベースだけで作るのかデジタル版としてホームページに掲載するのも要検討
 - ・サポートブックの目次案にある就園・就学について、各関係機関と連携し、内容を固めていく形で進めてほしい。
- ※その他特に異論無し

4 自立支援部会からの報告について

(人材確保養成テーマ会議)

- ・ビジネスパーク伊勢では中学生への職業啓発を行い、人材確保の拡大を目指している。
- ・就労につながる仕組みや研修ニーズの把握及び検討、処遇改善加算等研修を行った。
- ・障がい福祉分野における仕事の魅力発信という冊子の伊勢市版や障がい福祉全体がわかるような啓発冊子を設けることも検討している。

(就労支援テーマ会議)

- ・リーフレットの作成や就労移行支援事業所の利用促進、アセスメント表について検討している。
- ・伊勢志摩地域の高校と福祉の連携のために先生方と現状の共有を行った。
- ・課題としては、伊勢市外に進学した生徒への周知先、福祉就労についての理解促進、就労移行支援事業所が非常に少ないなどが残る。

(医療的ケア児者支援テーマ会議)

- ・災害時の検討において、避難訓練のモデルケースの協議をしている。

(子どもテーマ会議)

- ・関係機関との相互連携や役割理解をテーマとしている。
- ・親への情報提供を目的に伊勢市発達支援ハンドブックの作成を検討している。
- ・各関係機関で伊勢市のホームページにて掲載している内容や、子どもの子育てについてどのような支援ができるのかをまとめている。
- ・冊子形式ではなく、ホームページから見れるサイトのような形で作成していく。

(地域生活支援拠点テーマ会議)

- ・拠点登録事業所の拡大について検討している。
- ・地域資源の把握として、市内の事業所の見学会を検討している。高齢者の施設も事業所見学会の対象。
- ・利用者の拡大についてのアンケートもとり、利用者の把握をしながら促進していく。
- ・周知啓発の一環として、パンフレットの作成を行った。

(委員からの質問・意見)

- ・就労支援について、短時間雇用を今年度から伊勢市で始めたと思うが、現状報告を願いたい。
 - 令和6年6月からワークステーション伊勢を立ち上げた。
 - 就労体験の後、伊勢市の会計年度任用職員として採用する流れで9月には2名採用した。
 - 週に2回、男女に分かれて2時間勤務を午前午後と行っている。
 - 市役所内の簡単な仕事を切り出して、短時間就労してもらっている。
 - 今後の進め方がこれからの課題と認識している。
- ・グループホームのニーズは高いと思うが、現状伊勢市の施設は満たされているのか。
 - 特に重度の障害のある方の受入れ先のニーズは非常に大きく重要だと考えている。
 - 市内としては、アパートタイプのような比較的、中継度の方が入居できるような施設の整備が進んでいる状況。
- ・最近では女性が入所したくてもなかなかできないという話を聞くが、現状を教えてください。
 - ルームシェア的な一軒家をグループホームにしている施設だと入居条件で性別について限定があるのかと思う。

- ・親子で入れないかと聞かれたこともあり、自立に向けた施設のため制度的に無理だと思いがいがか。
- 親子で入居できる事業所は市内にはない。共生型サービスの取り組みと認識している。
- ・企業や地域での精神疾患の理解が乏しく、精神疾患をお持ちの方との関わりや専門的な施策も取り入れてほしい。

5 障がい者差別に関する相談事例について

(事務局より)

- ・ 令和5年度については、差別解消法に関する相談事例は3件あった。
- ・ 内訳については、肢体不自由の方からの相談が2件、知的障害の方からの相談が1件。
- ・ 相談内容については、合理的配慮に係る相談、特別支援教育に係る相談となった。
- ・ 令和5年度の取り組み状況については、4月に新規採用職員を対象とした差別解消法に関する研修を実施した。
- ・ 9月には障害者差別を理由とする差別解消の推進に関する職員対応要領を庁内で周知した。
- ・ 11月～12月にかけて障害者差別解消法について障がい者サポーターの研修会において紹介及び説明をした。
- ・ 12月には障害者週間に合わせて障害者差別解消法に関するパネル展示を行う予定

6 令和6年度障害者就労施設等からの物品等の調達方針について

(事務局より)

- ・ 今年度の目標は物品役務合わせて6,081万円
- ・ 業務内容としては、除草、清掃、封入封緘といったものが多い
- ・ 今後も庁内で委託できる作業を発注できるように周知していきたい

7 障がい者虐待防止について

(事務局より)

- ・ 相談支援の対応として、通報窓口を基幹相談支援センター、地域相談支援センター、市福祉総合支援センターに設けている
- ・ 令和5年度の虐待通報件数は15件で、そのうち事実確認を行った後、3件が養護者虐待となったが、養護者からの分離、障害福祉サービスの利用によって本人の安全を確保した
- ・ 対応方針としては、基幹相談支援センターとともに協議している
- ・ 障がい者本人の間取りを行う際には、信頼されている相談支援従事者及び障害福祉サービス事業者の皆様をお願いすることもあるので、今後ご協力願いたい

- ・ 令和6年度の虐待防止研修について、施設従事者による虐待防止研修を基幹相談支援センターにおいて企画している。不適切ケアについての事例検討を事業所間で討論し、虐待防止の有効な手段としたい
- ・ 伊勢市虐待防止マニュアルについて、国の手引きをもとに作成し、令和4年度に大幅改正してから大きな変更はない

(委員からの質問・意見)

- ・ 養護者の種別や施設の種類を教えてください
 - 養護者は親、同居している人が多い
- ・ 虐待が起こった要因を教えてください
 - 要因は人間関係のストレスや障がい特性を理解しての支援がうまくいかず、双方の齟齬により起こっているケースが多い
- ・ 施設従事者の内訳は不適切ケアということか
 - 施設従事者は同じ事業所において繰り返し起きることが多い
 - 当該施設には市の虐待防止研修への参加を促している